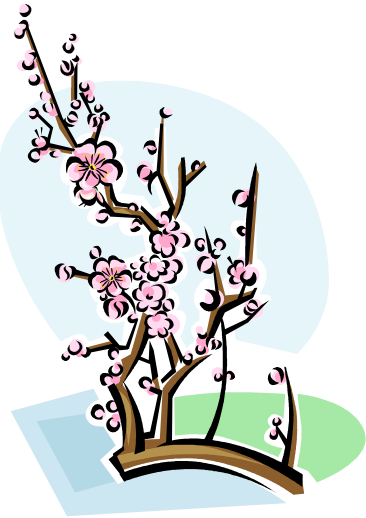


●現在の会員状況 (2011. 2. 18現在)

正会員 (個人)	75名
正会員 (団体)	3団体
賛助会員 (個人)	34名
賛助会員 (団体)	1団体



前号発行時より25名の方が
新たに入会してくださいました☆
ピピオは常に会員募集をしています。
詳しくは下記の掲示板をご覧ください。

～ピピオからのお知らせ掲示板～

お 願 い

「ピピオ子どもセンター」は、主に会員の会費と寄付によって運営される団体であり、子どもシェルターの継続的な運営は、多くの方のご支援がなければ成り立ちません。そのため「ピピオ子どもセンター」では、より多くの方々からご支援をいただきたく法人案内のパンフレットを作成し、広く入会申込及び寄付の募集をさせていただいております。

また、3月31日まで広島県共同募金会の「社会課題解決プロジェクト」の募金活動を行っております。この募金で得た金員はピピオ子どもセンターの活動資金になりますし、募金額が一定額に達すれば、共同募金会からプラスで助成金を頂ける仕組みとなっております。既に会員になって頂いている皆様におかれましても、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0005 広島市中区西白鳥町16番7号N I D Iビル202 那須法律事務所内

TEL : 082-221-9563 FAX : 082-299-7629

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～
vol. 2

平成23年2月18日

●「ピピオ子どもセンター」がNPO法人として認証されました!!

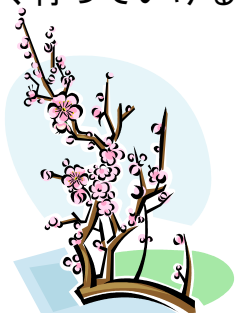
皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私ども『ピピオ子どもセンター』は、昨年9月23日に特定非営利活動法人の設立総会を開催し、その後広島県に認証の申請をしておりましたが、本年1月14日付けで広島県の認証を受けることができ、同月31日に法人設立登記を完了することができました。これも一重に皆様方の様々なご支援のおかげであると心から感謝申し上げます。

私たちは、子どものためのシェルター「ピピオの家」を本年4月に開所したいと考え、鋭意準備を進めております。そして、2月初めからボランティアスタッフとしてご協力頂ける方々の研修を行っておりますが、様々な立場の市民や学生の方が多数応募して下さい、私たちの取り組みが、安心できる家庭や居場所がなく、ひとりぼっちで困難を抱える子どもたちに少しでも手をさしのべたいという多くの市民の皆様の熱意に支えられていることを改めて実感しております。

私たちは、このような皆様の力を結集し、またさらに支援の輪を大きく広げながら、子どもを中心にすえたシェルター、そして児童自立援助ホームの運営を末長く行っていけるよう努力していきたいと決意を新たにしております。

今後とも、暖かいご支援のほど、よろしくお願い致します。



会員の皆様へのご挨拶～第2回～ 副理事長 部谷耕治

新年号に当たり、皆様方には良き年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

ピピオ子どもセンターは、昨年5月立上準備協議会を開催し、毎月1回の割で協議を積み重ねて参りました。その甲斐あって、ピピオ子どもセンターは、年明け早々に広島県から特定非営利活動法人の認証を受けることができました。これも、一重に皆さま方のお力添えの賜物と心から感謝しています。

私たち役員一同は、この認証を身の締まる思いと社会的責任・使命感を強くし、一刻も早く子どもたちの笑顔と輝き、そして家族の絆と幸せを築けるようピピオの家の開所に取り組んでいます。この設立資金・運営資金としては、広島県共同募金会、朝日新聞構成文化事業団「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」、アムウェイ、SBI子ども希望財団、中国労金NPO助成金、マツダ財団などの助成申請や会員募集などに奔走しているところであります。

助成申請では、すでに決定をしていただいた団体もあり、心からお礼を申し上げます。

会員の状況は、ピピオの語源＝ひな鳩の象徴である原爆ドームを会員の温かい手でつないだとしても、困む輪までには至っていません。昨今、漫画「タイガーマスク」の主人公(伊達直人)を名乗る善意の波紋が3重にも5重にも広がるなか、大地にしっかりと根を張り、強く羽ばたくことが末永くできるようピピオの家への心温まる支援をお願いします。

NPO法人ピピオ子どもセンター

副理事長 部谷 耕治

●虐待防止学会に参加して(2010. 11. 27, 28)



会員 寺西 環江

11月27日(土曜日)、28日(日曜日)に、日本虐待防止学会(in熊本)に参加してきました。日本虐待防止学会(JaSPCAN)というのは、子ども虐待防止を目指し、医療・保健・福祉・教育・司法・行政などの実践家・研究者が一同に会する研究会だそうです(今改めて勉強しました。)

学会は、午前中は全体発表が行われ、午後は、いくつもの分科会に分かれて構成されており、自分の興味がある分科会を選んで話を聞くことが出来ました。私は、シェルター関係の分科会に参加しました。

一日目は「虐待被害を受けた子どもの自立支援ネットワークを考える」という分科会に出ました。長崎大学大学院歯科薬学総合研究所の先生が直接関わっているケースを通じて、坪井節子弁護士とともに、虐待を受けた子どもたちへの関与形態をケース研究するという内容のお話でした。

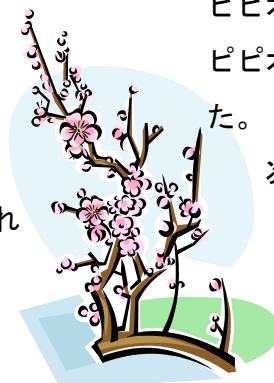
討論の議題になったのは、親や親せきに子どもを養育監護する体制が整っていないケースだったのですが、周囲の関係機関(市の子育て支援センター、児相、母子自立支援、民生委員、里親など)が、子どもの最善の利益保障を求めるためにどのように連携していくのが非常に大切だということでした。他方で、複数の関係機関が関与すると、情報を正確に共有することが難しくなるので、コーディネーターに管理してもらい、ケース会議を定期的に行わないといけないということも感じました。

二日目は、「子どもシェルターの自立支援」をテーマに、既存の各シェルターからの報告を受けました。シェルターで子どもたちと接触する際、非行の進んでいる子どもたちと、療養が必要な子どもたちをどのように接するかが難しいと聞き、今後、ピピオでも考えなければならない課題だなと感じました。また、薬物依存の少年が入所した際の対処の困難さ、そのとき、シェルター内の職員がピリピリしている様子なども聞き、子どもたちと接することのむずかしさ、施設維持のデリケートな部分があることなんかもひしひしと感じました。

総じて、今後の課題がたくさんあると感じた一日ではあったのですが、各シェルターの連携の大切さにも気付かされる一日でした。分科会の準備の際、既存のシェルターの皆様と、ざっくばらんにいろんな話をすることが出来たのですが、いろんな苦労話や(パオの高橋弁護士は、「これからの苦労話だから、ピピオには教えられない」と言っていました)、笑い話(少年が卵を隣の家の壁にぶつけた話し・・・笑えませんか)を聞くことが出来、本当に楽しかったです。

会場のあちこちに、関係各機関からの報告が掲示してあったのですが子どもシェルターのブースには、ピピオ、パオ、てんぼ、モモのそれぞれのニュースレターや、近況報告が展示してありました。「次回は、ピピオがここに並ぶんだな」と思うと、なんだかうれしくて、改めて「頑張らなきゃ」と思えた学会でした。

次回協議会に、素敵なピピオグッズを持参することを夢見つつ、私からの報告とさせていただきます。



●広島県共同募金会の「社会課題解決プロジェクト」の参加団体に選ばれ、街頭募金活動を行っております!!

今回の活動は、広島県共同募金会の「社会課題解決プロジェクト」での取組です。

「社会課題解決プロジェクト」とは、社会課題を解決する必要性を広く県民にアピールしながら、その活動資金を調達するために、共同募金会の使途選択募金への協力を呼びかけるというもので、共同募金会を通じて募金して下さった資金が、ピピオ子どもセンターの活動資金として助成されます。

街頭募金を行うことで、多くの方々に子どもたちの現状を知っていただくと同時に、ピピオ子どもセンターの存在を知っていただき、少しでも多くの子を救っていくことが出来ればと考えております。

今回の活動は、本年3月31日までとなっておりますので、皆様の温かいご支援をいただければ幸いです。